

## さらなる「子育てするなら上越」へ向けて

著者	大友 康博
雑誌名	NICかわらばん
巻	195
発行年	2005-04-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10631/710">http://hdl.handle.net/10631/710</a>

# 看護大通信

7



新潟県立看護大学専任講師

大友康博

縁があり上越市に赴任してはや三年たつ。

赴任して間もなく子どもに恵まれた。うれしい反面、初めての子育て、しかも双子ということ、当時ほどではないが、今も「大変」である。

その点、上越市には病児保育施設、未満児も待機なく入所可能な保育所、ファミリーヘルプ

保育園、産後ヘルパー制度そして生活協同組合等による助けあい活

さらなる

## 「子育てするなら上越」へ向けて

し明日の農業、農村を語りながらの農家調査や海外調査はできなくなった。

趣味の一つに、温泉巡り、酒蔵（洋酒含む）巡りがあるが、これも上越にエリアを限定し完全踏破をめざしている。競馬については、新潟競馬場まで行くことが

困難なため、TVで我慢している。しかし、馬と親しむ環境は浦川原区に農業特区を利用した施設（ここから見る頸城野の景観はすばらしい）等があり、満足し

ている。

調査研究テーマも、当方の専攻は農業経済学、協同組合論であり、生産者の高齢化に伴う諸問題を追いかけてきたので農業協同組合による高齢者福祉活動がテーマであった。今は、子育て支援、特に県内に約十一ある病児保育施設の運営に関する研究をメインとしている。また、その調査を通じて、子育て中の親に対する職場からのハラスメントが少なからず存在することを知り、弁護士との交流、

労働政策に関する調査研究をすすめている。

さらに、専攻である農業分野に関しても農業協同組合による次世代育成支援に果たす役割について調査研究をすすめている。

これらの調査研究活動を通じて、上越市がより「産み育てやすいまち」となることに微力ながら尽力したいと考えている。

※このコーナーでは読者の皆様からの看護、介護に関する疑問・質問に、看護大学の教員がお答えします。ご質問事項がございましたら、上越ニックスサービスまで、はがきかファクスでお寄せください。



▲究極の子育て支援：病児保育